

1. 概要

10月議会選挙について最も注目されているブエノスアイレス州選挙区における与党・ペロン党の候補者リストを巡るキルチネル大統領とドゥアルデ前大統領の交渉は、引き続き合意に至らなかった。また、ブエノスアイレス市選挙区では、キルチネル大統領の要請を受けて、ビエルサ外相が下院議員選挙に立候補することを発表した。その他、最高裁は、軍政期の人権侵害を不問にする旨定める免責法の違憲判決を下した。

外交面では、パラグアイにおいてメルコスール首脳会合が開催されたが、キルチネル大統領は、国内行事を優先して首脳会合開催前に帰国した。また、対民間債務問題等により二国間関係が悪化しつつある伊において、ビエルサ外相は、ベルルスコーニ伊首相等と会談した。

2. 内政

(1) 10月議会選挙

(イ) ブエノスアイレス州選挙区（上院改選議席：3、下院改選議席：35）

10月議会選挙のブエノスアイレス州選挙区における与党・ペロン党の候補者リストの作成等を巡って緊張関係にあると見られていたキルチネル大統領とドゥアルデ前大統領（現メルコスール常設委員会委員長）は、19日、パラグアイにおいて久しぶりに顔を合わせた（下記3.（1）参照）。

同日、ドゥアルデ前大統領は、同候補者リストを巡って、キルチネル大統領と交渉を続けていることを初めて公式に認めると共に、「まだ（最終決定まで）2週間の猶予がある」と述べた。

同交渉が決裂した場合、キルチネル大統領は「勝利のための戦線（Frente para la Victoria）」（注：各選挙区により構成は異なるが、同州ではペロン党を含む選挙連合になる模様）からクリスティーナ大統領夫人（サンタクルス州選出上院議員）を、ドゥアルデ前大統領はペロン党からドゥアルデ前大統領夫人（ブエノスアイレス州選出下院議員）を上院議員候補に擁立するとしている。

(ロ) ブエノスアイレス市選挙区（下院改選議席：13）

(i) 11日、ビエルサ外相は、10月議会選挙の下院議員選挙（ブエノスアイレス市選出）に立候補すると発表した。ビエルサ外相が下院議員に当選した場合、議員就任日となる12月10日までは現職に留まることが制度上可能であることから、キルチネル大統領は、ビエルサ外相が議員就任まで現職に留まることを望んでいる模様である。

(ii) 17日、カバロ元経済相は、同選挙区の下院議員選挙に立候補することを真剣に検

討していると述べた。

(ハ) サンタフェ州選挙区（下院改選議席：9）

ロサッティ司法相及びマリア・エウヘニア・ビエルサ・サンタフェ州副知事（ビエルサ外相の妹）が下院議員選挙への立候補を辞退したため、同州選挙区においてキルチネル陣営は、有力な候補者を擁立できない状況となっている。

(2) 軍政期の人権侵害

(イ) 14日、最高裁は、軍政期の人権侵害を不問にする旨定める免責法の違憲判決を下した（最高裁判事9人の内7人が支持）。

(ロ) また、免責法の遡及的無効を定める法律（2003年8月成立）の合憲性に関しては、最高裁判事5人が合憲であると判断した。

(ハ) 今次違憲判決により、免責法は遡及的に無効となり、現在拘束されている約150人の軍高官に加えて、数千人の軍関係者（退役軍人を含む）に対する裁判が再開すると言われている。

(3) 最高裁改革

(イ) 7日、ベルシオ最高裁副長官は、年齢を理由にロサッティ司法相に対して辞表を提出した。但し、同判事は、一部下級審判事の弾劾審議の職務を全うする関係で、正式辞任は9月1日になると説明した。

(ロ) 22日、上院は、職務怠慢を理由にボジャノ最高裁判事の職務一時停止を決定した。今後、上院は、同判事に対する弾劾審議を進める予定である。

(4) ピケテロ

(イ) 7日、Polo Obrero、CCC、MTD Anibal Veron 等複数のピケテログループや自動車労組 SMATA 等は、プエイレドン橋（ブエノスアイレス市南部郊外）、パンアメリカ（ブエノスアイレス州高速道路）等を封鎖して抗議活動を行い、約13万5000人のドライバーに影響を与える交通渋滞を引き起こした。

(ロ) 同日、キルチネル大統領は、「議論は、全ての人に対する敬意を払う範囲内で行わなければならない」と述べて、ピケテロの抗議手法を批判した。

また、アニバル・フェルナンデス内相は、「政府は、更なる警察の投入をも含めた何らかの手段により、道路封鎖の拡大を避けるようにするであろう。しかし、これは、抑圧することは意味しない」と述べた。

(5) 治安問題

2日、ブルンベルグ（注：2004年3月に息子を誘拐及び殺害されたことにより、治安改善運動を率いている民間人）は、最高裁前において抗議集会を行い、治安改善及び司

法改革を求める約5000人が集まった。

3. 外交

(1) メルコスール首脳会合

(イ) 19日、キルチネル大統領は、パラグアイのアスンシオンを訪問した（ビエルサ外相、アニバル・フェルナンデス内相、デビード公共事業相同行）。しかし、同大統領は、20日の「国旗の日」を記念するサンタフェ州ロサリオ市の行事に出席するために19日夜には帰国した。

(ロ) キルチネル大統領は、ドゥアルテ・パラグアイ大統領と会談した他、晩餐会に出席した。他方で、キルチネル大統領は、ペルーからの天然ガス輸入計画について、ラゴス・チリ大統領及びルーラ伯大統領と話し合う予定であったが、帰国日程を早めたため時間が足りなくなり、会談を行なうことができなかった。

(ハ) 20日、タイアナ筆頭外務副大臣（外交政策担当）は、本会合に関連して、「亜は、メルコスールが、貧困、社会的排斥、失業対策を行うための民主的・経済的ブロックになることを望む」と述べた。

(ニ) 今回の会議においては、構造的格差是正基金の創設（亜の分担割合は27%）、メルコスール人権議定書の署名、域内のエネルギー環状統合構想の前進等の進展が見られた一方で、域内貿易保護措置の導入等のテーマは先送りとなった。

(2) イタリア

(イ) 29日、伊に滞在中であったビエルサ外相は、ベルルスコーニ伊首相と約1時間に亘り会談を行った。当初、ビエルサ外相は、Gianni Letta 伊首相府副長官と会談するために伊首相府を訪れたが、そこに突然ベルルスコーニ首相が現れて、同会談が実現した。

(ロ) ビエルサ外相は、「ベルルスコーニ首相は、亜の（現在の）情勢及び亜が生産活動と財政均衡を改善しながら如何に経済回復を達成してきたかをよく理解していた」、「伊は、国際機関において、亜に反対する行動は取らないし、これからも取ることはないであろう」と述べた。

(ハ) 30日、ビエルサ外相はフィーニ伊外相と電話会談し、来年1月のフィーニ伊外相の訪亜等について話し合った。

(3) ボリビア

(イ) 7日、亜外務省は、リオグループの議長国として、政治危機に直面しているボリビア情勢につき懸念を表明するコミュニケを発出した。

(ロ) 10日、亜外務省は、ロドリゲス・ボリビア新大統領就任を祝福するコミュニケを発出した。

(4) チリ

10日、キルチネル大統領は、亜南部におけるチリとの国境付近において、ラゴス・チリ大統領と会談し、南米エネルギー統合計画の一環としてペルーからの天然ガス輸入計画等について話し合った。

(5) 英国

28日、ロンドンにおいて、英国政府の要請により歴史学者フリードマン氏が執筆したマルビーナス紛争に関する書籍が出版された。同書籍には、亜の主張と異なる事実が記述されているため、同日、亜外務省は、法的・外交的措置を検討すると共に、改めてマルビーナス諸島領有権を主張する旨のコミュニケを発出した。

(6) ベネズエラ

27-28日に予定されていたキルチネル大統領のベネズエラ訪問は、キャンセルとなった。同訪問において、チャベス・ベネズエラ大統領及びルーラ伯大統領と三者会談を行なう予定であったが、ルーラ伯大統領が伯の国内問題を理由に訪問をキャンセルしたため、キルチネル大統領も訪問を取り止めた。

(7) 要人往来

(イ) 来訪

6月13日	Palocci 伯経済相及びメレンテス・ベネズエラ財務相
6月22日	ラビネ・チリ国防相
6月17-19日	高野環境副大臣（健康と環境に関するミレニアム開発目標合同大臣会議出席）
6月22-25日	土屋元参議院議長

(ロ) 往訪

6月3日	アニバル・フェルナンデス内相のパラグアイ訪問（メルコスール内相会議出席）
6月5-7日	ビエルサ外相の訪米（OAS 総会出席）
6月9日	トマーダ労働相のスイス訪問（ILO 年次会合出席）
6月13日	デビッド公共事業相のペルー訪問（トレド大統領等と会談）
6月14-15日	ビエルサ外相の訪米（国連非植民地化委員会出席）
6月16日	シオリ副大統領のブラジル訪問（ルーラ大統領等と会談）
6月19日	キルチネル大統領のパラグアイ訪問（メルコスール首脳会合には欠席するものの、メルコスール各国大統領と顔を合わせる。ビエルサ外相同行）
6月23-25日	シオリ副大統領の訪米（カーター元大統領等と会談）

6月29日－7月2日 ビエルサ外相のイタリア訪問（ベルルスコーニ首相等と会談）